

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・  
指定都市名

岐阜県

地域名

各務原市・川島中学校区

人権課題

子供、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、インターネットによる人権侵害、性的指向、性自認、人権感覚

目標・人権教育  
のねらい

- ・ 自己有用感を高め、自分を大切にするとともに多様な他者の見方や考え方を尊重する態度を育成し、よりよい人間関係を築こうと行動できる力を育てる取組を実施する。
- ・ 小中連携を軸に9年間の発達の段階を見通した指導を推進するとともに、家庭・地域社会と一体になって人権意識を醸成し児童生徒の人間形成に取り組む。

各組織の動き・役割等

岐阜県教育委員会

岐阜教育事務所

各務原市教育委員会

人権教育総合推進会議

学校運営協議会

各校のPTA

福祉施設等

川島小中連携 企画委員会・三指導部・人権教育推進部・研究推進部の連携

企画委員会：小中9年間で育てる子どもの姿、人権教育に関わる小中連携した取組や活動についての協議

三指導部：人権課題に関わる重点活動についての協議

生活：自分も他者も大切にできる生活環境づくり  
※重点活動：清掃活動、タブレットの使い方

学習：皆が安心して学習に取り組める学習姿勢・学習環境づくり  
※重点活動：聴き方・話し方・反応の仕方、ユニバーサルデザインの学習環境

特活：他者と関わる活動の蓄積による他者意識の醸成  
※重点活動：よいこと見つけ活動、あいさつ活動

人権教育推進部

「自己有用感の涵養」  
・ 外部講師との連携による「人権ワークショップ（おしえるがっこう）」の企画運営  
・ 「ひびきあい活動」における小中連携

研究推進部

「視覚化・焦点化・共有化を生かした授業づくり」  
・ 主体的で対話的な深い学び（小）  
・ 自分の考えをもち、学び合える生徒の育成（中）  
・ 人権を尊重した授業の視点づくり

校種間連携の  
概要

- ・ 小中連携のために、主幹教諭を調整役とした合同企画委員会、合同指導部長会、合同人権推進委員会、合同研究推進委員長会を設置した。人権の視点で各指導部の取組や授業づくりを見つめ直し、小中9年間で自分も他者も大切にできる子どもを育てることを目指し、体系的な指導を行えるように組織体制づくりを行った。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

## 地域・関係機関との連携の概要

- ・ 児童生徒の自己有用感を高め、自他を尊重する人権意識を高めるために、外部講師を活用し、「人権ワークショップ（おしえるがっこう）」を開催し、児童生徒自身が作る『じぶんクイズ』の実践を行った。幼保小中、PTA、自治会で構成された人権教育総合推進会議員や保護者が授業を参観したり、『じぶんクイズ』に参加したりした。

## 事業成果

### ○知識的側面

「人権の大切さについては、憲法などの法律に示されていることを知っていますか？」

事業開始時：82%⇒事後終了間際：89%

「他人の人権を侵害する行為は、どんな理由があっても行ってはならないと思いますか？」

事業開始時：87%⇒事後終了間際：98%

#### 【児童生徒の変容の分析】

- ・ 社会科や保健体育、総合的な学習の時間等に加え、「ひびきあい活動」により知的理解が深まった。

### ○価値的・態度的側面

「自分のよいところを知っていますか？」

事業開始時：64%⇒事後終了間際：75%

「友達のことを考えて、行動しようと思っていますか？」

事業開始時：65%⇒事後終了間際：68%

#### 【児童生徒の変容の分析】

- ・ 「人権ワークショップ（おしえるがっこう）」等により、自己肯定感や他者理解が向上した。

### ○技能的側面

「自分の意見や考えを、人に伝えることはできますか？」

事業開始時：81%⇒事後終了間際：89%

「友達が困っているとき、自分から助けることはありますか？」

事業開始時：93%⇒事後終了間際：96%

#### 【児童生徒の変容の分析】

- ・ 「人権ワークショップ（おしえるがっこう）」、「UDの視点や人権尊重の視点による授業づくり」によって、自分の考えをもち、安心して表現できる集団や人間関係が築かれた。

※割合は、川島小・川島中児童生徒のアンケート結果による